

平成17年度第1回 神戸市保健医療審議会 議事録要旨

日時 平成18年1月13日（金） 午後1時30分～3時

場所 市役所1号館第4委員会室

議事要旨

報告事項

（１）兵庫県保健医療計画の改定に伴う神戸圏域計画について

・資料3の説明

〔神戸市保健医療計画審議会（平成16年8月12日開催）概要〕

平成13年4月に策定された兵庫県保健医療計画は、平成18年の4月に改訂の予定である。神戸市については、平成13年10月に当審議会からの答申をいただき、平成14年2月に2010年（平成22年）までを計画期間とする「神戸市保健医療計画2010」を策定している。

この計画は、兵庫県保健医療計画における神戸圏域のアクションプランと位置付けられている。兵庫県の改定にあわせて、神戸市保健医療計画の時点修正の方向で調整・検討を行う。

〔兵庫県保健医療計画改定方針〕

現在、国において、健康・医療・介護に関する制度改革が進められつつあり、医療法、介護保険法、地域保健法、健康保険法等の改正が予定され、平成18年度から20年度にかけて順次実施される見込みである。今回の計画の見直しは、変革の途中段階にあるということ踏まえて必要な改訂を行い、次回において、国の制度改革全体を踏まえた抜本の見直しを行うこととしている。

「計画の構成」については、全県計画と圏域計画をあわせて医療法に基づく医療計画とする。「計画期間」は、平成18年4月から23年3月までの5年間の計画とする。ただし、社会・経済情勢の変化や大幅な制度改革などがあった場合は、必要に応じて5年の経過を待たずに見直すものとする。

今の構成（案）ということで、第1部、第2部の2部構成、第1部の「総論」として、第1章の「保健医療圏域の概況」と「基盤整備」という2章、第2部の「各論」として、「いのちを守る」、「地域ケアを進める」、「健康と元気を支える」という形の3章構成にしている。

・委員意見

「診療科目別救急患者数」に精神科を載せていただきたい。

兵庫県とも協議し、工夫したい。

災害医療で、いわゆる災害要援護者あるいは救護者への対応を明確に触れていただきたい。

記載については、検討したい。

先端医療、あるいは中央市民病院の移転等に伴っての記載について、再考いただきたい。いただいた意見をもとに再検討したい。

「小児科救急医療」の「推進方策」のところで、例えば子どもの多い地域、あるいは、診療が集中する日などから重点配置するといった方向性があれば教えていただきたい。

供給サイドの問題等があるが、そういった方向を目指していきたいと考えている。

「精神保健」のところで、少し上位の目標として、自殺問題について掲げられないか。

自殺の防止対策は、我々も大きな課題であると認識しており、別に策定している「健康こうべ21」が、今年度、中間見直しの作業を進めており、それらも含めながら対応していきたいと考えている。

ITを取り上げての健康づくりは、全国各地で言われているが、関係機関ともよく相談の上で進めていただきたい。

神戸市におけるアスベストの特別な取り組みはあるのか。

国で新しい動きが出てきており、現段階では、アスベスト対策という項目は掲げていない。

神戸市では昨夏からアスベスト対策として、住民からの問い合わせの相談に応じるとともに、医師会のご協力のもと医療機関でやっている肺がん検診等を受けていただくことを勧めている。

医療の現場で経済的な格差の問題が出てきているが、そういうものを計画の中に盛り込んでいく必要はないのか。

非常に大きな問題で、今後、審議会等の機会をとらえ、議論しながら考えていく必要がある。今回はまだ検討できていない。

今回は時点修正ということであるが、常に新しい問題が出てきており、その新しい社会現象なり問題に対して取り組むという姿勢を入れていく必要がある。

地域包括支援センターに関して、神戸市では公平性を求めたセンターにしていくためのガイドラインをつくるということであるが、その検討状況を教えていただきたい。

ガイドラインの作成については、今、内部のほうで検討しているところである。

病院前救護で、脳卒中の場合、9年前にアメリカでTPAという薬が開発された。諸外国ではプリホスピタルケアとしてこれが行われており、プリホスピタルケアの中にこれを入れていただきたいと考えている。

国の方針等に基づいてやっていることなので、今後検討していきたい。

(2) 神戸市の感染症に対する取り組みについて

・資料4の説明

1. 感染症対策専門分科会の開催

(1) 神戸市健康危機管理専門家会議及びウイルス感染症部会

(2) ウイルス感染症部会

(3) 食中毒・細菌感染症部会

2. 感染症発生状況

(1) 全数把握対象感染症発生状況

(2) HIV・エイズ発生状況

性感染症（STD）定点報告数

3. 最近注目されている感染症の現状と対応

(1) ウエストナイル熱

(2) オウム病

(3) 高病原性鳥インフルエンザ

(4) 新型インフルエンザ

委員意見

鳥インフルエンザに関して、神戸市内には関連施設はあるのか。

市内には、大規模な養鶏業者はない。ただし、北区など農村部では、小規模で鶏を飼っている施設はある。鶏の高病原性鳥インフルエンザ対策については、兵庫県が農林施策という形で対応をしている。神戸市でも、市内で鶏を飼育をしているところの実態について常に把握をしている状況である。

結核患者の年齢分布はどのようになっているのか。

年齢的には高齢者が3分の2を占めている。昔に感染し、免疫力が落ちてきて発症をしてしまうということが患者の中心になっている。

問題なのは、発見が遅れてしまうことである。また、若者にも感染者が増えてきている。基本的には、定期的に健診を受けるとか、早期の受診を勧める啓発を行っていく必要がある。